

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-61C	12-012	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and risk of renal cell carcinoma: results of a meta-analysis. アルコール飲酒と腎細胞癌のリスク：メタアナリシスの結果		
執筆者		
Bellocco R, Pasquali E, Rota M, Bagnardi V, Tramacere I, Scotti L, Pelucchi C, Boffetta P, Corrao G, La Vecchia C.		
掲載誌		
Ann Oncol. 2012 Sep;23(9):2235-44.		
キーワード		
腎細胞癌、メタ・アナリシス、用量反応関係		
要 旨		
背景： アルコール消費量と腎細胞癌との関連はいまだ不明であり、少数の研究では適度なレベルのアルコール消費において有益な効果を報告している一方、用量反応関係があるかについてはいまだに議論がある。		
対象および方法： 2010年11月以前に印刷された論文のうち、少なくとも3水準のアルコール消費量に関する結果を報告している20の観察研究(4つのコホート研究、1つのプールド解析、15つの症例対照研究)がPubMedとEMBASEを組み合わせた検索を通して選択された。全体の相対リスク(RR)と95%信頼区間(CI)は変量効果モデルを用いて推定され、2次分数多項式と変量効果メタ回帰モデルの両方によって用量・リスク関係の検討が実施された。		
結果： 推定RRは、アルコール飲酒の形態を問わない場合は0.85(95%CI:0.80から0.92)、軽度の飲酒(0.01~12.49グラム/日)では0.90(95%CI:0.83から0.97)、適度な飲酒(12.5~49.9グラム/日)では0.79(95%CI:0.71から0.88)、過度な飲酒(≥50グラム/日)では0.89(95%CI:0.58から1.39)であった。		
結論： 今回のメタ分析は、適度なアルコール消費の腎細胞癌に対するリスクに負の効果があるという仮説を支持している。		